

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	デジタル信号処理		
英文授業科目名	Digital Signal Processing		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	電子工学科		
担当教官名	桐本 哲郎		
居室	西2 - 823		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kirimoto@ee.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題：エンジニアの仕事は、いろいろな信号を測定することから始まるというてよいだろう。信号を詳しく解析し、われわれの目的に合致する意味のある情報を抽出する操作を信号処理と呼ぶことにする。処理対象となる信号は、電子機器における電気信号はもちろん、音声・画像、さらに計測制御、医用、メカトロニクス分野に関係する多種多様な信号である。ふつう、連続時間関数となる信号も、その処理となるとコンピュータを利用して行われるのがもっとも効率的である。そこで、コンピュータを活用して行う信号処理技術である、デジタル信号処理について学ぶことにする。</p> <p>(b) 達成目標：信号のデジタル化、離散信号の性質とその表現法、離散時間システムとその性質、雑音とフォルタ、高速フーリエ変換 (FFT) など、基礎的な事項をきちんと理解し、応用できる力を身につける。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>線形代数学、微分積分学などの基礎数学</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>確率統計学</p>
--

<p>【教科書等】</p> <p>いままで多くの書籍が出版されているが、教科書として、貴家：デジタル信号処理、昭晃堂 をあげておく。</p>

【授業内容とその進め方】

記の項目について解説する。ただし、6. は時間の関係から簡単に触れる程度になると思われる。

1. フーリエ変換とサンプリング定理
2. FFTと窓付きフーリエ変換
3. Z変換と線形システム
4. デジタルフィルタ
5. 不規則信号とその推定
6. 適応信号処理とその周辺

自分で実際に手計算したり、コンピュータを使って計算したりすることが理解を助けるので、講義以外に演習およびレポートを課す。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：期末試験と中間試験の成績に基づいて評価を行う。さらに、出席状況やレポート点を加味して、次のような総合評価を行う。

$$\text{成績評価} = (\text{中間試験の評価点} \times 30\%) + (\text{期末試験の評価点} \times 50\%) \\ + (\text{出席} \cdot \text{レポート点} \times 20\%)$$

(b)評価基準：以下の60%到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- (1)フーリエ変換の意味がわかり、窓の概念、さらにFFTの原理がわかる。
- (2)Z変換の定義を知り、簡単な計算ができる。
- (3)離散時間の線形システムの表現とその周波数応答が計算できる。
- (4)デジタルフィルタを理解し、簡単物が設計できる。
- (5)確率現象、確率システムの初歩を理解している。

【オフィスアワー：授業相談】

本講義の曜日（木曜日）とする。それ以外は、電子メールにて事前に連絡すること。

【学生へのメッセージ】

時系列データをコンピュータで処理するときに役立つ実用的な学問である。全員が十分理解することを希望する。

【その他】